

二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団体名	二宮Days
事業名称	YOUTUBEチャンネル用の動画制作プロジェクト
補助金額	78,400円
現場確認日	令和3年6月26日(土) 事務局による現場撮影
出席委員	小林委員(6月27日(日)代表に聞き取り)



事業の概要

二宮町の人・風土・文化・取り組みなどを取材撮影し、映像作品としてYOUTUBE上にアーカイブ(保存記録)・また対外的に公開。そのメディアを通して、住民のコミュニティ強化と移住促進を図ることを目的とする。



現場確認の内容

町内地引き網の紹介動画の撮影現場に同行した。参加者は団体の声掛けにより、全体で170人程の応募があったが、密を回避するために2日間に分けて開催した。

1回目(6月26日)は下町の市五郎丸で行い、カメラが船に同行し、海上からの様子を撮影したほかドローンによる空撮も行った。2回目(7月10日)は梅沢の秋山丸で行い、刺し網漁の様子を撮影した。

出席委員のコメント

- ・まず、今年1年はできるだけ計画通りに進めていただき、実績を作ってほしい。
- ・動画のコンテンツはイベントよりも町民のライフスタイルや食について取り上げていただいた方が良い。
- ・他団体や町民との連携をすることで、コンテンツもYouTube登録数、閲覧数も今後増えて行く可能性がある。
- ・二宮町在住の町民(20代~40代)と移住希望者を対象としているとのことだが、最初はターゲットを絞った方が良い。
- ・助成金を申請できるのはあと2年だけ。今後はお金より人脈や他団体とのコラボが一番の財産となる。

二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団体名	にのみやこども食堂便
事業名称	にのみやこども食堂便・フードパントリーみんなのとまり木
補助金額	200,000円
現場確認日	令和3年7月16日(金)
出席委員	大河原委員



事業の概要

日曜を除く毎日午後2時から2時間、フードパントリーを開催。

年度内に2回の学習会、スタッフ研修を企画。
他団体との交流を図り、活動を広げる。



現場確認の内容

開店直後のフードパントリーの現場確認を行った。毎週水曜と金曜に「フードバンクかながわ」から食料品が納品されており、レトルトカレー、カップ麺、米などが並んでいた。

ボランティアで対応しているが、毎日の引継事項を細かく記録し、スタッフ間で連携の取れた運営をしていることを確認した。

出席委員のコメント

・今回フードパントリーの確認を行いました。来客も多い日だと10名以上いるようで、活発に活動している印象を受けました。口コミなどにより二宮町以外からの来客も有るようで活用されている方々の評判もいいのではと推測されます。問題としては、過剰に持っていかれる方などもいる様でしたが、連絡先を記載していただくなど対応を取っているようでした。

また、引きこもりの相談や介護の悩みなど、なんでも相談できる“よろず無料相談”や新型コロナワクチンなどの情報交換を行う“サイエンスカフェ”なども行い、幅広く活動している事も確認致しました。

全体的にととても良い活動だと確認する事ができました。今後も引き続き活発な活動を期待致します。

二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	みんなの一色子ども食堂
事 業 名 称	「子ども食堂」と「0円ショップ」の開催
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和3年8月2日（月）
出 席 委 員	山岡委員



事業の概要

地域の方々のセーフティネットとなるよう、低価格での食事提供と無料のフリーマーケットを開催し、幅広い年齢層の交流の場をつくる。

夏休み期間の児童へのお弁当提供は申込制。



現場確認の内容

8月2日の弁当配布に同行した。

午前10時30分に予め注文を受けた弁当を「なのはな」に受け取りに行き、百合が丘児童館で各配布ルートに仕分ける。当日は29食の注文があった。

出席委員のコメント

- ・子ども食堂を実施していたときとお弁当の配食では利用する人たちが違うとのことでした。お弁当の配食はコロナ禍におけるやむを得ない対応ですが、提供するサービスを変えることで今まで関わりのなかった方たちとつながりが持てたことは良いことだと感じました。
- ・現状6人の会員と不定期に参加するボランティアでお弁当配食、0円ショップ、フードパントリーの活動を回しているとのことでした。お話を聞く限りオペレーションは特段問題ないように感じました。
- ・お弁当配食では利用者とのコミュニケーション機会は玄関先だけなので、アンケート等により利用者の声を聞いていただければ、スタッフの励みにもなるでしょうし、今後の活動の改善にもつなげられると考えます。
- ・暑い日でしたがスタッフの皆さんが楽しそうに作業をされていることが印象的でした。
- ・なお、お弁当配食等現在の事業はコロナ禍で実施できなくなった子ども食堂の代替の活動であり、コロナが収まれば子ども食堂を再開するとのことですが、現状、お弁当は外部から購入しており、コロナ禍がすぐに収まる見通しもないので、継続的に実施していくための経費（すなわち補助金終了後）をどうするか考える必要があると感じました。

二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	にのみや子ども応援隊
事 業 名 称	発達サポーター育成講座・基礎講座 in にのみや
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和3年10月22日（金）
出 席 委 員	豊田委員



事業の概要

近年、家庭や保育、教育の場で子ども達の発達をめぐる課題が多く存在している。そこで子どもの発達の特性やサポートの方法を学び、町内に子どもの理解者や支援者の輪を広げ、スキルを活かすサポーターを育成することを目的とする。



現場確認の内容

参加者は約 40 名であり、基礎講座Aを修了した方々による基礎講座Bの初回であった。

講義だけではなく、参加者同士が話し合うような時間もあり、参加型の講義による受講者相互で学びを深めていくものであった。

出席委員のコメント

- ・講師の星山先生は楽しくパワフルな方で、話のテンポもよく、引き込まれる講義でした。素晴らしい講師を招いてこられたと思います。
- ・講座で聴いた「多様性の尊重と受容」「自己理解」「肯定的に聞く」「寄り添いと正義の太陽のバランス」などは、家庭や学校だけでなく、一般社会においてもためになるものだと感じました。
- ・不登校の小中学生が過去最多 19 万人以上と報道された中、受講者の方々は「タイムリーな内容だった」「星山先生の話聞いて、今の我が子にはゆっくりする時間が必要なのだと思えた」と話していました。講座は、子どもとの関わり方や不登校などの悩みを抱えている保護者の助けにもなっているようです。
- ・講座での学びを深めるために、受講者同士が話し合う「お茶会」も始まり、活動が広がっています。今後、講座修了者や発達サポーターの資格を取得した方が、保育・教育の現場や地域の中でどのような働きをしていかれるのか、教育委員会と学校、コミュニティ・スクールなどと連携して、サポーター育成講座からその先の取り組み、組織のステップアップへと発展させていけたらよいと思います。
- ・代表の原さんから以前、「『困った子』といわれる子どもは『困っている子』なのです」と伺ったことがあります。「不登校の子や集団行動が苦手な子＝問題児」「親の躾が悪い」「先生がしっかりしていないから」などと決めつけず、発達障がいに対する人々の理解と保護者・関係者への支援を広げていくことを期待します。

二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	農ある暮らしを広める会
事 業 名 称	次世代に受け継ぐ次期リーダーの育成
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和3年11月28日(日)
出 席 委 員	志賀委員



事業の概要

NPOの活動に理解と協力が得られるようになり、農を核として、人々が多くの仲間たちと多面的、継続的な活動を行う新たな地域づくりや地域住民と積極的な繋がりを創ることが実現しつつある。これらの事業を継続し、次世代に受け継ぐために更なる次期リーダーを育成する。次期リーダーは3年計画で育成する。



現場確認の内容

二宮農園の現場確認を実施。14名の参加者があり、手つかずの状態から新たな畑の畝作りの実践を行った。

参加者の中には、長野県で行われた4日間のリーダー研修に参加(交付した補助金を活用)された方から、研修内容の話しをお聞きした。

出席委員のコメント

当日現地に伺うと、既に何人かの方々がご自分の担当する畝の手入れをされていた。それぞれの畝では、雑草の中から各種の野菜が顔を出しており、これまでに見たことのある家庭菜園の状況とは全く違っていることに驚いたが、各種雑草の背は低く、無秩序に全ての雑草を許容しているわけでもないと感じた。

集合時間になり、代表から、この季節における手入れのポイントなどが紹介された後、新しく借りた場所に、新しい畝を作る作業を参加者全員で行った。

参加者は、圧倒的に女性が多く、多くを移住者の方が占めていると聞いた。また、積極的な広報・募集をしなくても、口コミで募集枠はすぐに一杯になるとのこと。

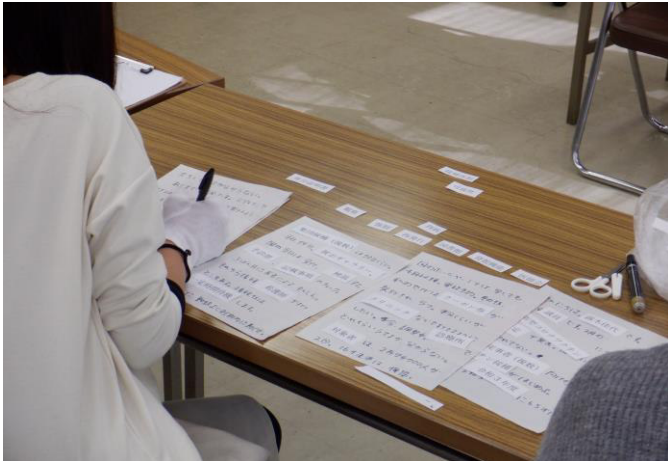
作業を行っている間、実際に補助金を活用して長野県に研修に行かれたメンバーにお話を伺ったところ、以前から自然農法に興味がある一方で、自費で研修に行くことはハードルが高く実行できなかったが、補助金を活用することにより実現することができたとのこと。

二宮町の自然に触れて暮らしたいというニーズは多く、自然農園に共感し活動をしたいという人も一定数存在すると思う。一方で、地域の気候特性を理解し、雑草とも共存しながら、作物を組み合わせ育てていくためには、基礎知識を持ってしっかりと教えることのできる人材確保が不可欠であるので、補助金は、有効に活用されていると感じた。

研修に行くための補助金を受け続けることができる期間は限られているので、活動の幅を広げながら、研修に行った方から、研修に行っていない方へ、しっかりと考え方を伝え、活動を通じ、一定の理解を持って、他の人につなげていかれるような仕組みづくりを行うことが望まれる。

二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	要約筆記サークル「てーくとーく」
事 業 名 称	聴覚障害者への情報保障の充実
補 助 金 額	121,600円
現 場 確 認 日	令和3年12月10日（金）
出 席 委 員	手塚委員



事業の概要

手話がわからない中途失聴・難聴者・老人性難聴者への情報を要約し文字にして伝える要約筆記をより広い範囲で行う。



現場確認の内容

代表の他、会員6名が集まり、動画を流しながら要約筆記の練習を行った。場所は社会福祉協議会の1部屋を借りている。

練習後は当補助金で購入したOHCとプロジェクターの接続方法を学んだ。

出席委員のコメント

月例で実施している研修にお邪魔しました。

- ・メンバーの皆さんが真剣にトレーニングに励む姿に感動しました。
- ・今回の助成金で購入した、かなりコンパクトなOHCの設置からプロジェクターの操作まで、メンバー全員がいつでもどこでも使用が出来るように、受益者のことを一番に考え、慣れない手つきで何度も挑戦していました。
- ・特に中途障がいの方へのサポートには要約筆記が必要です。今後の活動に期待します。
- ・メンバーの中では、メンバーの高齢化の声も聴かれました。各種ボランティア育成講座を開催するなど、行政や社会福祉協議会での取組の後押しが必要な時期ではないかと感じました。

二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	もりびとNOA
事 業 名 称	地域の若者が多世代をつなぐ故郷の環境再生
補 助 金 額	200,000円
現 場 確 認 日	令和3年12月16日(木)
出 席 委 員	伊達委員



事業の概要

かつて薪山だった二宮の小山郡は現在放置され、竹林が繁茂し、木は大きくなりすぎ、土中環境が悪化し、崩落が散見されるがかつて子どもたちは山や川で存分に多様な生物と関わり自然と一体感のある子ども時代をすごした。子どもたちの自然体験と若者が環境再生の機会を広げたい。



現場確認の内容

竹林整備の活動現場を確認。
メンバー内の4人及び講師が揃い、斜面の竹を伐採する作業に同行した。
竹林の整備は、斜面崩落の防止や土中改善に効果があり、併せて遊歩道の整備も進めることで、子どもの遊び場や地域の人憩いの場としても利用してもらえるものであった。

出席委員のコメント

「地域の森を守り、子どもたちが自然体験の中で安心して遊べる」場づくりの現在の活動は、川勾神社近くの斜面の竹林を切り開くというものでした。令和3年3月から開始し、コロナ禍という厳しい環境の中で進められてきましたが、今後、作業が週1回のテンポで順調に進めば、令和4年3月ごろには、ひとまず完了の見込みだとのこと。ただ、切り倒した竹、樹木の処理作業とともに、引き続きケアしないと再び人が立ち入れない場に戻る恐れがあるので、今後も整備活動が必要とのこと。

この日は大学生と社会人4名が、講師（フォレストリーダーの伊藤氏（大磯町在住））の指導のもと、きびきびと作業が行われていました。大きな竹が切り倒される際には、特に細心の注意が必要だとのことでした。

彼らは、目標達成のために、この場所ではもう少し山頂までの整備をし、将来的には吾妻山の沢や山野林など、多くの場所の整備をしたいと生きいきと語ってくれました。また、会長からは備品の購入などで、町からの補助金は大変に助かっているが、資金についてはこれからも続く課題の一つだということでした。

このほかに「子どもたちとの釣り」や「学習支援」にも取り組み、「農ある暮らしを広める会」との連携を図っている。今後とも町とは両輪のような連携を強めていくことを期待しているとのこと。

若い人たちの熱心なボランティア活動に心打たれ、将来への力を感しました。